

## 【研究報告（令和2年度）】

### チーム② 学童期・思春期の学校適応支援・活力ある人間形成の研究チーム（②-1） 「生きる力」が育つ学校文化を創る

松永邦裕<sup>1,\*</sup> 徳永 豊<sup>1</sup> 本徳勇氣<sup>1</sup> 皿田洋子<sup>2</sup>

1) 福岡大学人文学部、2) 福岡大学、\*) チーム責任者

#### 要 旨

本事業は子どもたちの対人関係の希薄さ、問題への処理能力の乏しさ、自尊感情の低さに対して、Social skills training（以下、SST）のプログラムを実施し、日常生活を充実させる活力をつけようとする取り組みである。3年間の実施で、同級生との関わりの中で良い変化が見られ、教員が日常でも評価することでスキルが強化されていることが考えられた。本年度は、学会発表やワークショップの開催を通して、全国の学校関係者に周知する計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学会発表や本学での独自ワークショップができず、当初の予定通りに進めることができなかった。

#### 1. 緒 言

本研究は子どもたちが抱える人間関係の希薄さや問題への対処力の乏しさ、自尊感情の低さといった問題点をSSTによって改善し、学校や家庭が子どもにとってより楽しく過ごせる場となるように2017年から3年計画で開始した。

昨年度の報告書では、年度末に得たデータが未報告であったため、本報告書では、SSTを3年間体験した子どもたちにどのような変化がみられたか、また担任の先生たちがSSTをどのように評価しているかについて検討する。

#### 2. 方 法

##### 1) 対象

A市内B小学校2017年度4年生（2019年度6年生）全クラスの約150名および各担任

##### 2) 年度ごとの実施回数とターゲットスキル

2017年度（6回）：①さわやかな挨拶、あた  
たかい言葉かけ②友達を誘う③困っている  
人に声をかける

2018年度（5回）：①自分の気持ち、考えをは  
っきり伝える②上手な頼み方③上手な断り

##### 方

2019年度（5回）：①上手なあやまり方②イラ  
イラのコントロール③わからない時に上手  
にたずねる

##### 3) 評価

「社会的スキル尺度（小学生版）」「自尊感情  
測定尺度（東京都版）」および教員に対する半  
構造化面接

##### 4) 外部評価に対して改善を図った内容

論文化を通じて、成果を広く周知することな  
どを期待されていたが、新型コロナウイルス感  
染拡大の影響で、学会発表などが延期になった  
ため、改善を図ることが出来なかった。

##### 5) 研究倫理

福岡大学研究倫理委員会承認「研究課題名：  
児童・思春期の学校適応・活力ある人間形成に  
関する研究」研究倫理審査承認番号：18-12-02  
2019年2月20日

#### 3. 研究結果

##### 1) 質問紙による評価

社会的スキル尺度（小学生版）」と「自尊感

情測定尺度（東京都版）」を用いて効果の検証を行った。今回の報告は SST 開始前と 6 年生終了時を比較した結果である。

「社会的スキル尺度（小学生版）」15 項目の変化をみると、「8. 友達と離れて、一人だけで遊ぶ」「9. 友達の遊びをじっと見ている」

「11. 休み時間に友達とよく喋る」の 3 項目で正の方向に大きな変化が認められた。

「自尊感情測定尺度（東京都版）」22 項目の変化をみると、「3. 人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる」「6. 自分の中には様々な可能性がある」の 2 項目で正の方向に多少の変化が「22. 私は人と同じくらい価値のある人間である」の 1 項目で正の方向に大きな変化が認められた。

## 2) 担任の先生からの評価

2019 年度の 3 月に担任 4 名に 1 年間の SST を振り返ってもらい、15 分の半構造化面接を実施した。その結果、「毎回良いところを聞いていたので、お互いの良さに気付くきっかけになった」「SST の内容を意識して行動していた」と語られた。また教員自体が褒める回数が増えたことや、学級のメリットとして「みんなで何かする」という時間になったことが語られた。その他、ロールプレイの内容が当該学年の日常生活では起こらないような場面設定もあったため、現実感があつたか分からないなど課題も挙げられた。

## 4. 考察

3 年間の SST プログラムを通して、社会的スキル尺度（小学生版）」の結果から同級生との関わり方の点で良い変化が見られた。SST の影響がどこまであつたのか、明確に示すことはできないが、「さわやかな挨拶、あたたかい言葉かけ」「友達を誘う」「わからない時に上手にたずねる」など、人との関わりに関するスキルを SST で扱ったことで、同級生との関わり方に変化が生じたのではないかと考えられる。また練習したことが活かされ、社会的スキルの向上、

自信、自尊感情の向上に役立っていることが認められた。

6 年次の担任のインタビューから SST を体験することによって子どもたちは、お互いの良いところに気付き、自分自身が社会的スキルを使用していることを認識するようになったことが明らかになった。担任の先生方も「児童を褒める回数が増えた」など SST を通して児童への関りに良い変化が生じていたと考えられる。ロールプレイの内容が「日常生活では起こらないような内容になっていた」と先生方は評価していたが、宿題を見ると、練習した内容だけでなく、似たような場面が日常で起こった際に、SST で得たスキルを使用したという記載も見られ、応用できている児童もいたと考えられる。

## 5. 結論

SST では日常の学校生活でみられる具体的な対人場面をすべての子どもが練習し、実践する。それを教員が日常で評価し強化する。この方法がスキルの獲得を促し、それによって自信、自尊感情の向上をもたらし得ると言える。

## 6. 研究発表

### 1) 日本学校教育相談学会第 32 回総会研究大会（兵庫大会）

「小学校における集団 SST の実践研究」として発表予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となった。2021 年度に発表予定である。

### 2) 第 26 回 S S T 全国経験交流ワークショップ in 仙台（WS 仙台）

「教育現場の SST」としてワークショップを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となった。2021 年の開催は中止となり発表予定は無い。

### 3) SST プログラムワークショップ

県下の小学校教員を対象にしたワークショップを実施する予定にしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で 2021 年度に延期となった。代替として、研究協力校の小学校において 2021 年 3 月に、教員を対象とした報告会を予定している。